

# 国連NGO横浜国際人権センター・うずしおブランチ T-over人権教育研究所・人権こども塾 ニュース

前号の続き、看護師をめざしているマキの「今」についてです。

2年の実習は、1年の時の実習を反省して積極的に患者さんに話しかけにいきました。

最初は1年のときの意地みたいなものでした。でも、だんだん話すうちに患者さんの、病気になってやるせない気持ちや、毎日の治療の時間の長さのしんどさについて話してくれるようになりました。

私は、この人の為にどうにかしたいって思いました。それから、1年の時では考えられないくらい、担当看護師さんに患者さんの変化や気にしていることを積極的に伝え、自分がしたいことを伝えるようになりました。

彼女の本領発揮といったところです。

彼女は元来そういった一面のある子でした。でも、内気で控えめな一面もありましたから、なかなか自分の「良さ」が出なかったのだと思います。

それでも、中学時代の自分を思い出し、自らの道を切り拓いていったのだと思います。

私は自分が発言することで世の中が変わるとも思っていないし、周りに影響を与えたいから発言したいとも思いません。1回くらいはオバマ大統領みたいなスピーチしてみたいですけどね。(笑)

偽善だと言われたらそれまでなんですけど、自分にくれたあたたかい気持ちを返したいって思ったら、どうかしようとして自分から発言すると思います。その人が少しでも楽になるように、幸せになって欲しいから、いつもみたいに笑顔でいて欲しいから、何かを伝えたいから、発言すると思います。

中学校の時にそんな風に思った気持ちは嘘じゃないし、誰かの為に自分の気持ちを伝えることで、自分自身も救われていたように思います。自分の好きな人が苦しそうなのは私もつらかったから、相手が少しでも楽になれば、私も楽になっていたような気がします。

誰かが、相手が、人が、楽な気持ちになることで、自分も楽な気持ちになれた。

そんな経験はないでしょうか。

人の感性を送受信する周波数はそれぞれ違って、自分が共感したからといって他人も共感するとは限らないし、他人が共感したからといって自分も共感するとは限りません。

でも、感性の周波数を合わそうとすれば、共鳴する可能性はあります。

相手の立場に立って考えることはなかなか難しいものです。

でも、もし共感的に聞くことができれば、見える景色は全然違ってきます。それは単なる「知る」というものではありません。感情をともなって「知る」。つまり、共感的に聞き、「知る」ということです。

前述の彼女の回答に、私はこんなふうな返事を送りました。

「誰かの為に、という思いは決して間違いではないし悪いことではないと思います。それが今の自分の大切なエネルギーになっているのなら、それは自分のものになっているということです。あなたはたぶん、ずっとそういう生き方をしてきたのだと思います。それが、今の自分の生き方につながっているのだと思います。そんなふうに思えた中学時代の語り合いは、意味があったのではないのでしょうか。私にはそう思えます。」

それにまた、彼女から返事が送られてきました。

(次号へ続く)

本気で語り合う人権学習は、——「すべてを変える」

うずしおブランチ代表

